

科目名	公共	学科・学年・学級	商業科・1学年・
		単位数	2単位（週2時間）
使用教科書・副教材等		[教科書]	高等学校 新現代社会（帝国書院）
		[副教材]	ニュービジョン現社（浜島書店）

### 1 学習目標

- 人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って現代社会と人間についての理解を深めます。
- 現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断する姿勢を身に付けます。
- 自らの人間としての生き方や在り方について考える力の基礎を養います。
- 上記三項目の学習の成果を踏まえて、良識ある公民としての必要な能力と態度を養います。

### 2 学習方法

- 公共の学習とは、細かな年代や法律の条文を覚えることではありません。基本的な事柄を学習しながら、それぞれの出来事にはどのような背景があるのか、他とどのように関わっているのかを、倫理や社会、経済などの様々な観点から主体的に追及するように意識しましょう。
- 公共では、学習対象が社会と人間であり、生きている現代社会に焦点を当てます。授業だけに捕らわれずに新聞やニュースを見たり聞いたりして、興味や関心を広げてみましょう。
- 公共では、民主主義の基本理念である人間の尊重と、社会認識の基本である科学的な探求の精神に基づいた学習を展開していきます。人間としての在り方、生き方について考えていきましょう。

### 3 学習評価

#### (1) 評価の観点・趣旨・方法

観 点	趣 旨	評 価 の 方 法
知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・授業プリント</li> <li>・質問に対する発表やペアトークの内容</li> <li>・課題、ワークブックの提出状況と内容</li> </ul>
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・授業プリント</li> <li>・質問に対する発表やペアトークの内容</li> <li>・課題、ワークブックの提出状況と内容</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加の仕方や態度</li> <li>・授業プリント</li> <li>・課題、ワークブックの提出状況と内容</li> </ul>

#### (2) 各学期及び学年末の評価

各学期の評価は、定期考査、小テスト、プリントや課題の提出状況、授業態度・出席状況、授業中の発表等を総合して行います。

学年末の評価は、1・2・3学期の評価を平均することにより行います。

#### 4 学習のポイント

- 一時間一時間の授業を大切にしてください。年間を通して継続して予習、授業、復習のサイクルを徹底することが大切です。
- 教科書はもちろん、副教材も必ず用意してください。指示がなくても自分で調べてみるようにしましょう。
- 活発な発言や質問を通して積極的に公共の授業に参加しましょう。みなさんの「なぜ」「どうして」という疑問をふくらませ、考える習慣が身に付くと、現代社会の学習が楽しくなります。

#### 5 学習計画（予定）

月	学 習 項 目	学 習 の ね ら い ・ 活 動
4	「公共」の学習について 第1部 私たちがつくる社会 第1章 社会のなかの私たち 第1節 青年期と社会参画 第2節 宗教・思想・伝統文化と社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「公共」の学習について、その意義や学習内容の概要、評価の方法などについて理解します。</li> <li>・大衆化社会、管理社会、高齢化社会、情報化社会、国際化社会を我々の生きる社会として具体的に学習します。</li> <li>・現代社会の中でどのような生き方が自分らしい人間的な生き方なのかを探求し学習します。</li> </ul>
5	第2章 思想から学ぶべきもの 第1節 倫理的な見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人生における青年期の意義を考察し、大人として成長していくための課題が何なのかを問いかけ、学習します。</li> </ul>
6、7	第3章 私たちの社会の基本原則 第1節 社会の基本原則と憲法の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期が社会の変化とともにどのように変化してきたのかを、歴史的な観点から学習します。</li> <li>・日本の伝統的な共同体における生活文化を学び、それが持つ現代的意義を学習します。</li> <li>・近代民主主義思想の背景となった社会契約の考え方を学習します。</li> </ul>
9	第2部 社会のしくみと諸課題 第1章 私たちと法 第1節 法の意義と司法参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議院内閣制と大統領制の仕組みを学び、社会主義国の政治機構の特色を概観します。また、それらを踏まえて、日本の政治機構の長所や短所について学習します。</li> </ul>
10、11	第2章 私たちと政治 第1節 民主社会と政治参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法の成立過程について学びます。また、日本国憲法が規定している平和主義、基本的人権の尊重、国民主権の内容と理念について学習します。</li> </ul>
12	第2節 国際政治の動向と平和の追求	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会成立の意義について学ぶと同時に、今の国際社会が形成されるに至った経緯について概観します。また、国際社会における集団安全保障についても学習します。</li> <li>・国際連合の果たす役割が平和問題、南北問題、人権問題、環境問題、難民問題に及んでいることを学習します。</li> <li>・グローバル化の動きが加速する中で日本はどういう役割を担うべきかを研究します。</li> </ul>
1	第3章 私たちと経済 第1節 市場経済のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済変化の原動力は科学技術の進歩であること、また、それが与える生活の便利さと危険性を学習します。</li> </ul>
2	第2節 豊かな社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資本主義社会における財、サービスの市場取引、企業の種類および企業間の提携と経営の多角化について学習します。</li> <li>・経済の基本原則としての市場原理を科学的に考察します。同時に、市場の失敗としての独占、寡占、公共財や外部経済について学習します。</li> </ul>
3	第2部 持続可能な社会の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本銀行の金融政策は何を目標にどのような政策を行うのかを学びます。また、日本における社会保障制度の概要と今後の課題を学習します。</li> <li>・地球温暖化の原因は、私たち自身の生活から生じていることを学習します。</li> <li>・地球の資源やエネルギー資源には限りがあること、現代のあらゆる産業は石油に依存していることを学習します。</li> </ul>